

レジオネラ症の発生防止について

1 レジオネラ症とは

レジオネラ属菌が原因で起こる感染症で、レジオネラ属菌により汚染された目に見えないほど細かい水滴（エアロゾル）や土ぼこりを吸い込むことで感染します。人（感染者）から人への感染事例はありません。

重症になって死亡する場合もある「レジオネラ肺炎」と数日で自然に治る場合が多い「ポンティアック熱」の2つの病型があります。

「レジオネラ肺炎」は、乳幼児や高齢者、病人など抵抗力が低下している人や健康な人でも体力が落ちている人などが発症しやすい傾向があります。

2 レジオネラ属菌の特徴

レジオネラ属菌は、土壌や河川、湖沼など自然界に広く生息している細菌です。

20℃から50℃で増殖し、36℃前後が最も増殖に適した温度と言われており、入浴施設の浴槽水やシャワー水の温度に近いです。

3 主な感染源

衛生的な維持管理が行われず、レジオネラ属菌に汚染された循環式浴槽、ジャグジー、加湿器、冷却塔などの人工的な水循環設備の目に見えないほど細かい水滴（エアロゾル）が主な原因となります。

4 住宅においてレジオネラ属菌の発生を防ぐには

（1）循環式風呂（追い炊き機能付き風呂、24時間風呂など）

取扱説明書に従って、定期的に浴槽やろ過装置・フィルター・配管の清掃を行い、いつも清潔に保つようにしましょう。ジャグジーなどの気泡発生装置は感染のリスクが高いため使用時には十分注意してください。お風呂の汚染対策としては、

- ・ 浴槽のお湯は毎日交換しましょう。
- ・ 浴槽などに汚れやぬめりがある場合は、十分に洗浄しましょう。
- ・ 市販の配管洗浄剤などを使用し、定期的に配管の洗浄を行きましょう。
- ・ シャワーヘッドを定期的に洗浄しましょう。
- ・ 浴槽に入る前には、体の汚れを十分に落としてから入るようにしましょう。

（2）加湿器

加熱をしないタイプの超音波式、遠心式加湿器では、タンクの汚染が起りやすく、長期間水を溜めたまま放置される可能性があります。加湿器の汚染対策としては、

- ・ タンクの水は、毎日交換しましょう。
- ・ タンクの水は、水道水などの衛生的な水を使用し、水のつぎ足しはやめましょう。
- ・ 汚れやぬめりが生じないように、タンク内部を定期的に洗浄しましょう。

- ・ 長時間使用しないときは水を抜き、汚れを取り除いて乾燥させましょう。

(3) その他

園芸用の培養土や塵埃からの感染事例もあります。土いじりや農作業、高圧洗浄などの作業の際にはマスクを着用しましょう。

(参考) 県保健医療部生活衛生課のホームページ

- 入浴施設におけるレジオネラ症防止対策について

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/seiei/kankyo/seiei/seieitopikkusu/legionella/legi.html>

(参考) 住宅宿泊事業法施行要領（ガイドライン）（抜粋）

- 届出住宅に循環式浴槽（追い炊き機能付き風呂・24時間風呂など）や加湿器を備えている場合は、レジオネラ症を予防するため、宿泊者が入れ替わるごとに浴槽の湯は抜き、加湿器の水は交換し、汚れやぬめりが生じないように定期的に洗浄等を行うなど、取扱説明書に従って維持管理すること。（「レジオネラ症を予防するために必要な措置に関する技術上の指針」（平成15年厚生労働省告示第264号（平成30年8月3日厚生労働省告示第297号により一部改正））等を参考）。